

## ブロイラーのコンテナケージによる立体飼育試験

田代浩幸・千綿政信 (佐賀県畜産試験場)

Hiroyuki TASHIRO and Masanobu CHIWATA : Studies on Growth of Broilers in Cage

ブロイラーのコンテナケージによる立体飼育は、現在の平飼い方式に対し、収容羽数の増大、管理作業の省力、出荷作業等に利点があるとされている。これを活かした飼養管理において、育成状況及び経済性について検討したので報告する。

### 1. 試験方法

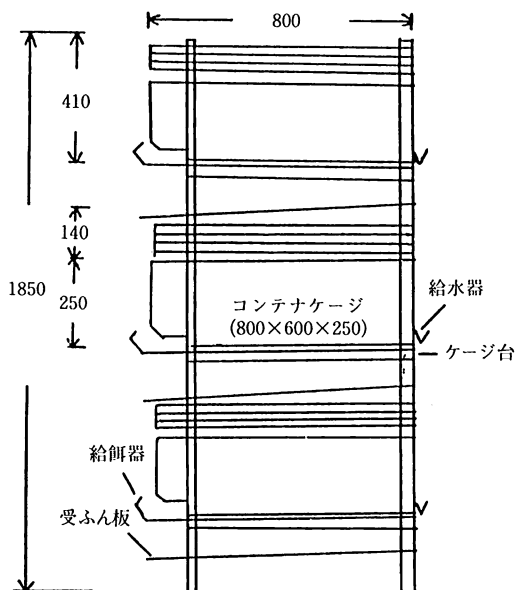
- 1) 供試鶏 アーバーエーカー
- 2) 試験期間 1985年10月2日~12月3日 (63日間)  
1986年10月1日~12月2日 (63日間)
- 3) 試験区分 第1表のとおり。

第1表 試験区分

区 分	試 験 羽 数	備 考
コンテナ	6羽区 36羽(6羽×3ケージ×2カ所)	雌雄別飼
	7羽区 42羽(7羽×3ケージ×2カ所)	
	8羽区 48羽(8羽×3ケージ×2カ所)	
	9羽区 54羽(9羽×3ケージ×2カ所)	
平飼い区	100羽(40羽/3.3㎡)	

### 4) 試験鶏舎及びコンテナケージ

試験鶏舎は鉄骨スレート葺で腰下に跳上げ戸、窓にはビニールカーテンを取りつけた南北棟の開放鶏舎を使用した。コンテナケージの構造は第1図に示した。



第1図 コンテナケージ

### 5) 飼育管理

傘型プロパンブレンダーで14日間飼育し、以降コンテナケージ及び平飼いで飼育した。0~21日齢は市販ブロイラー前期飼料, 22~56日齢は市販ブロイラー後期, 57~63日齢は市販ブロイラー休業後期飼料を用いた。平飼い区は3.3㎡当たりチップ15kgを用いた。

### 2. 結果及び考察

- 1) 育成率(第2表) 各区とも良好な成績であった。雌は雄よりも良い傾向が認められた。
- 2) 生体重(第2表) 平飼い区がコンテナ区よりも良い傾向にあった。また、コンテナ区においては、増羽するにしたがって、増体が落ちる傾向を示した。
- 3) 飼料摂取量(第2表) 雌は雄よりも多く摂取し、雄、雌ともコンテナ9羽区が少ない傾向にあった。
- 4) 飼料要求率(第2表) 雌では平飼い区、雄では平飼い、8羽、9羽区でやや低い値であったが、収容羽数、飼育方法の相違による一定の傾向はみられなかった。
- 5) 経済性(第2表) 経済性の目安として、3.3㎡当たりの粗収益を算出した。経済性の算出基礎は生体1kg当たり180円、飼料費1kg当たり50円、ヒナ代1羽95円コンテナケージフレーム耐用年数10年償却費(坪当たり)860円とし、コンテナ区の坪当たり羽数は6羽区が48羽7羽区は56羽、8羽区は64羽、9羽区は73羽とした。雄では平飼い区、コンテナ6羽区とコンテナ8、9羽区の間、雌では平飼い区、コンテナ6羽区とコンテナ9羽区に危険率5%水準で有意な差が認められた。これは、コンテナ立体飼育したことにより、坪当たりの収容羽数が多くなったためと考えられる。

第2表 結果

	性	平飼い区	6羽区	7羽区	8羽区	9羽区
育 成 率	雄	95.0	94.4	95.3	95.9	97.2
	雌	98.0	98.6	100.0	100.0	99.1
生 体 重	雄	3269	3211	3177	3166	3099
	雌	2729	2663	2646	2642	2643
飼料摂取量	雄	7532	7583	7663	7313	7165
	雌	6717	6866	6713	6802	6662
飼料要求率	雄	2.34	2.36	2.40	2.33	2.32
	雌	2.50	2.58	2.54	2.58	2.53
経 済 性 <sup>1)</sup>	雄	3560 <sup>a,2)</sup>	3872 <sup>a</sup>	4126 <sup>ab</sup>	5844 <sup>b</sup>	6817 <sup>b</sup>
	雌	1325 <sup>a</sup>	1087 <sup>a</sup>	1741 <sup>ab</sup>	1765 <sup>ab</sup>	2673 <sup>b</sup>

注) 1) 経済性①コンテナ区: [(生体価格)-(飼料費)-(ヒナ代)]×(坪当たり羽数)×(育成率)-(コンテナ償却費)  
②平飼い区: [(生体価格)-(飼料費)-(ヒナ代)]×(坪当たり羽数)×(育成率)  
2) 異文字間に有意差 (危険率5%)